

単元名 1 深まる学びへ ―握手

配当時間 4時間

単元の目標 (1) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
 (2) 文章の種類を踏まえ、物語の展開の仕方などを捉えて批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。
 (3) 粘り強く物語の展開の仕方を捉え、学習課題に沿って作品を批評したり、考えたことを伝え合ったりしようとする。

標準的な単元例

12210102_001

【準備等】国語指導CD、再生機

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 小説「握手」を読み、初読の感想をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 作品を通読し、初読の感想や疑問をまとめよう。 ○ 気になる表現や手、指の描写などに傍線を引きながら、作品を通読する。 ○ 注意する語句・新出漢字を調べる。 ○ 傍線を引いたり書き込んだりしたことを基に、初読の感想をまとめる。 ○ 初読の感想を学級で交流する。 <p>2 作品の設定を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 「現在」と「回想」の部分を読み分け、作品の設定を捉えよう。 ○ 「回想」について理解し、作品を再度通読する。 ○ 「現在」と「回想」の部分を読み分け、時間の順序を整理する。 ○ 作者は、なぜ「回想」を織り込む展開の仕方でのこの作品を書いたのかについて考え、話し合う。 <p>3 登場人物の人物像・心情を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 登場人物の人物像と心情を読み取ろう。 ○ 登場人物の人物像を読み取る。 ○ 「わたし」と「ルロイ修道士」との間で交わされた、3回の握手に込められた二人の思いを考える。 ○ 「ルロイ修道士」の葬式で、「知らぬ間に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた」ときの、「わたし」の気持ちと心の中の言葉について考え、伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。 ・ 教師の範読か、国語指導CDを利用してもよい。また、読めない漢字に振り仮名と、難語句にも印を付けさせながら聞かせる。 【評】 傍線を引いたり、疑問や感想を書き込んだりしながら作品を読む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 初読の感想を書くために、以下のような視点を示してやるとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ① 疑問に感じたこと ② 重要だと思ったこと ③ 心が動かされたところ ・ 交流を通して、自分の作品の捉え方を確認させたい。 ・ 教科書(p.24～25)を参考にする。 ・ 2色の色鉛筆で各行上部に線を引き分け、現在と過去に色分けするとつかみやすくなる。 ・ 回想のきっかけとなる事柄や行動に着目させる。 【評】 語句に着目して、「現在」と「回想」の部分を読み分ける活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 構成を意識しながら、それぞれの描写がどの場面のどういう状況のものかを整理させる。 【評】 物語の展開の仕方の効果について考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 「ルロイ修道士」の性格や価値観、ものの見方や考え方などが読み取れる言動を抜き出して、どのような人物であるかを短くまとめさせる。 ・ 「ルロイ修道士」が置かれている状況や立場年齢などを踏まえて考えさせる。 ・ 人物を表す言葉を一覧表で示し、活用させるとよい。 【評】 人物像を表す言葉に着目して、登場人物の人物像を読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 「感情を表す言葉や心の中の言葉」、「登場人物の行動・様子・会話文」、「情景描写」、「出来事」など、文章中の言葉を根拠にして考えさせる。 ・ 心情を表す言葉を一覧表で示し、活用させるとよい。 ・ 3～4人程度のグループで互いの考えを伝え合わせる。 【評】 登場人物の心情を読み取り、伝え合う活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

4 読みを深めた感想を交流し，学習を振り返る。

○ 本時の学習課題をつかむ。

★ 読みを深めた感想を交流しよう。

○ 読み深めたことを踏まえ，「ルロイ修道士」の考えや生き方について，自分で考えたことや感じたことを書く。

○ 読み深めた感想を交流する。

○ 学習を振り返る。

・ 「ルロイ修道士」の生き方や価値観について語り合い
考えが深まったことを挙げる。

【評】 登場人物の生き方や価値観を，自分の知識や経験と比較しながら考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

・ 小グループやペアで行うことで全員が感想を発表できるようにする。

・ 「握手」の展開の仕方にはどんな特徴や効果があったか，自分の言葉でまとめさせる。

・ 「ルロイ修道士」の生き方や価値観について語り合い，考えが深まったことを挙げさせる

【評】 作品を批評したり，考えたことを伝え合ったりしたことを振り返る活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

第3学年のスタートにあたり，第2学年までの学習を生かしつつ，言葉への気付きをより深いものにさせたい。詩や小説，古典を通して，言葉の力や豊かさに気付かせ，そこに描き出された人間の生き方についても考えさせたい。また，これらの学習活動を通して，第3学年での学習に対する意欲を高めることも念頭に置いて指導に当たりたい。

また，小説の登場人物も古典に描かれた生き方も，自分や社会と深い関わりをもっている。義務教育の最終段階として，読むことを通してより広い視点から人と社会の関わりについて考えさせ，第3学年での国語の学習の見通しをもたせたい。

「握手」は，道徳のDー（19）生命の尊さ，Dー（22）よりよく生きる喜びに当たる。

テーブルクロスを用意し，教卓に西洋料理店の食卓を演出すると，言葉からイメージすることが苦手な生徒にも，その場の情景や登場人物の心情がつかみやすくなる。必要に応じて役割演技をしてもよい。